

〈幼稚園 健康〉

社会的な生活習慣を身につけるための援助の工夫

—幼稚園と家庭との連携を通して—



浦添市立浦添幼稚園

平良 奈津子



目次

I	テーマ設定理由	1
II	目指す子ども像	1
III	研究の目標	1
IV	研究仮説	1
1	基本仮説	1
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
1	家庭との連携	3
2	社会的生活習慣を身につけることの必要性	4～8
3	社会的生活習慣定着へ向けた教材教具の工夫	9
4	生活習慣に関する保育の年間指導計画	10
VII	保育実践	11
	検証保育の全体計画	11
	検証保育 実践事例1	12～13
	検証保育 実践事例2	14～17
VIII	研究の考察	18
1	作業仮説（1）の検証	18～20
2	作業仮説（2）の検証	20～21
3	作業仮説（3）の検証	21～22
IX	研究の成果と課題	22
1	成果	22
2	課題	22
	おわりに	22
	主な参考・引用文献	22



社会的生活習慣を身につけるための援助の工夫

－幼稚園と家庭との連携を通して－

浦添市立浦添幼稚園 平良奈津子

【要約】

本研究は幼稚園教育において、生きる力の基礎を培う上で、社会的な生活習慣を身につけることが大切であるという前提のもと、幼児がより楽しく社会的な生活習慣を身につけていくことができるよう理論研究を行い、年間指導計画の作成及び教材・教具の工夫や家庭との連携による取り組みの保育実践を試みたものである。その結果、自分たちで生活の場を整え規則正しい生活をするということについて、幼児なりに理解し、興味関心を持ち、取り組み意欲の向上へとつながると考える。

キーワード □基本的な生活習慣 □社会的な生活習慣 □家庭との連携 □幼稚園 □幼小連携

I テーマ設定理由

「学力向上主要施策(夢・にぬふあ星プランⅡ)」によると「生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で幼児教育の役割は重要であり、この時期に生活や遊びを通しての豊かな体験から学ぶ力を育て、『生きる力』の基礎を培うことが幼稚園教育の役割である」また「幼稚園教育においては、幼児期にふさわしい生活を通して創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培い、小学校以降の教育につなげる」とある。

近年「小1プロブレム」と呼ばれる現象が大きな問題となっている。2010/5/25 産経新聞の記事斎藤剛史氏によると「幼稚園や保育所などでは、子どもたちの自発的活動としての遊びが重視されている。これに対して小学校では、教員による教科の学習が中心となり、時間割通りに授業が行われる。入学直後、この違いに戸惑う子どもはこれまでも少なくなかった。しかし最近では、いつまでも小学校のやり方になじめない子どもが増えており、教師の話聞かなくなったり、授業中に勝手に歩き回ったりするなどして長期間にわたり授業が成立しない、というケースが増加している。これが小1プロブレムと呼ばれるもの」と示されている。

「集団生活のきまりを守る」「身の回りの整理整頓や公共の物を大切に使う」など幼児期に育むべき社会的な生活習慣が身につけていないことが原因の一つではないかと考えられる。

6月に本園の年中組保護者を対象に生活習慣に関するアンケート調査を実施した中で、園生活を通して我が子に身につけてほしいものとして関心が高かったのが「思いやり」「協調性」に続き「あいさつなどの社会的な生活習慣」があげられた。家庭での実態として片付けがうまく出来ず、どう躰けていいのかわかっている、という声も多かった。

幼児期は周りの行動を模倣しながら自分でやろうとする意欲を持つ時期である。園では教師が、家庭では保護者が寄り添い、自分でやり遂げたという満足感を味わわせ、自立心を育てることが大切である。社会的な生活習慣を習慣化させるためには幼稚園と家庭が連携し合いながら意図的に取り組むことが大切だと考える。

そこで本研究では、幼児の発達段階に即した生活習慣の育成について、家庭との連携を進めていくことで、子どもたちが社会的な生活習慣を身につけることができるような実践研究をしていきたいと考え本テーマを設定した。

II 目指す子ども像

- 集団生活のきまりがわかる子
- 身の回りの整理整頓ができる子

III 研究の目標

園生活を通して家庭との連携を図りながら、社会的な生活習慣を身につけるための援助の工夫をする。

IV 研究仮説

1 基本仮説

家庭との連携を通して発達に即した活動内容や援助の工夫を行うことで、社会的な生活習慣が身に付くであろう。

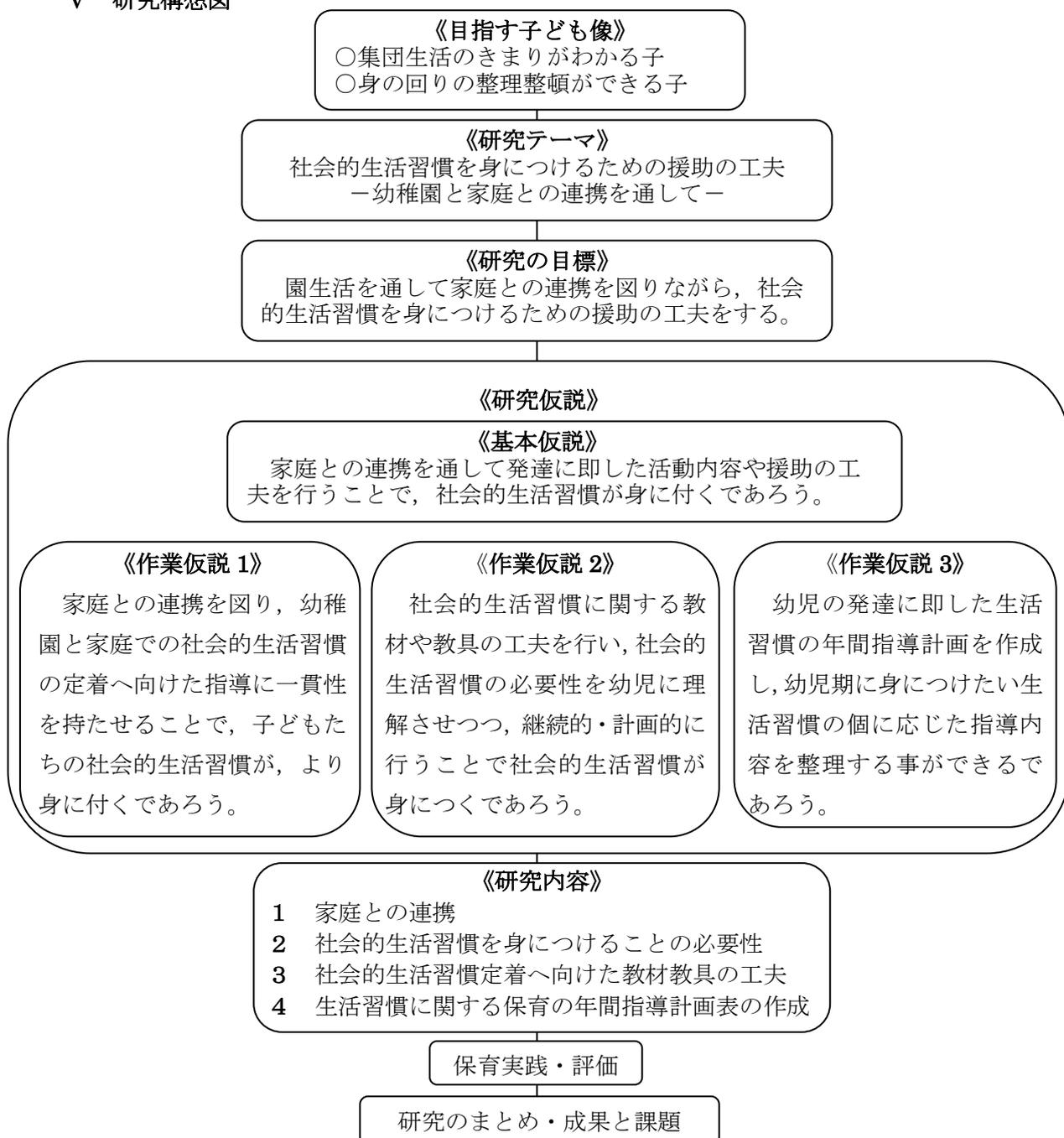
2 作業仮説

(1) 家庭との連携を図り、幼稚園と家庭での社会的な生活習慣の定着へ向けた指導に一貫性を持たせることで、子どもたちの社会的な生活習慣が、より身に付くであろう。

(2) 社会的な生活習慣に関する教材や教具の工夫を行い、社会的な生活習慣の必要性を幼児に理解させつつ、継続的・計画的に行うことで社会的な生活習慣が身に付くであろう。

(3) 幼児の発達に即した生活習慣の年間指導計画を作成し、幼児期に身につけたい生活習慣の個に応じた指導内容を整理する事ができるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 家庭との連携

幼児期の生活習慣の取り組みについては周りの大人の影響が大きいので、幼稚園で基本的な生活習慣の定着を試みたとき、園独自の取り組みでは限界がある。例えば、「早寝・早起き・朝ご飯」を定着させる意識付けや必要性を理解させる取り組みを幼稚園で行ったとしても、実際に行うのは家庭なので保護者の意識がないことには定着させるのは難しい。幼稚園では教師が、家庭では保護者が、双方が一貫した指導を連携して行う必要がある。(図1)

社会的な生活習慣を身につける必要性を教師と保護者が共通理解し、幼稚園と家庭とが連携し合いながら子どもたちへ接する必要があると考える。



図1 幼稚園と家庭との連携

社会的な生活習慣を身につける必要性を共通理解するために行う、家庭との連携の具体的な取り組みとして次のような計画を立てた。(表1)

表1 家庭との連携の具体的な取り組み

	具体的な取り組み	教育効果
1	アンケートを利用し家庭での実態調査をする	○個々の生活習慣習得状況を把握し、園での指導の際、個に応じた指導ができる。
2	生活習慣に関する情報発信をする	○幼稚園での生活習慣定着へ向けた取り組みを保護者に知らせることで、指導の一貫性を持つことができる。
3	保育参観を活用する	○子どもが活動している様子を参観することで、子どもの成長を確認する。
4	「お片付け頑張りカード」の活用をする	○園での身の回りの整理整頓への取り組みの状況をカードを通して保護者へ知らせる。園だけではなく、家庭でも話し合う場を持つきっかけを作る。
5	「ひとりでできるもんカード」の活用をする	○親子で決めた手伝いを継続することを約束し、カードを活用し日々の成果を書き込む。家庭での取り組みを担任教師が確認し、保護者・担任が称賛することにより、子どもの意欲が向上する。

2 社会的生活習慣を身につけることの必要性

(1) 基本的な生活習慣と社会的な生活習慣

望ましい経験や活動シリーズ「第7巻 生活習慣」によると、生活習慣とは大きく2つに分類することができる。

一つ目は「基本的な生活習慣」であり「人間が人間らしく社会に生活していく中で必要不可欠なもの」のことを指し、主に食事・排泄・睡眠・清潔・着脱のことを示している。

二つ目は「社会的な生活習慣」であり「人間を人間社会の一員として社会的に適応させるのに必要な習慣」を示し、主に生活ルールの習慣、あいさつの習慣、後片付けの習慣、物を大切にすることを示している。

両方をまとめて「基本的な生活習慣」とすることが一般的となっている。

基本的な生活習慣とは幼児だけではなく、児童、生徒、社会人にとっても大切な生活習慣である。幼児期は保護者に依存している時期であり、基本的な生活習慣の定着へは大人が意図的に取り組むことが大切である。幼児期は保護者の保護のもとにあるため、比較的生活習慣が身に付いている。しかし、一度身に付いた生活習慣も自立心が芽生え保護者の保護から離れると、崩れることがあり、再度身につけるために指導が必要である。

(2) 幼稚園教育の中で

幼稚園教育要領「健康」領域の中で「基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、幼児の自立心を育て、幼児が他児とかかわりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身につけるようにすること」とある。子どもたちは幼稚園入園と同時に、集団生活が始まり「自分の事は自分です」という初歩の集団のきまりが要求される。靴や上履きの脱ぎ履き、カバン、帽子、タオルなどの持ち物の始末、手洗い、うがい、排泄、道具の片付けなど一つずつ、できるように自立の精神を養わなくて

はならない。また、幼児の園生活の遊びでは、遊具などを共有する、順番を守る、交代するなどのきまりが要求される。そのような社会的な生活習慣を身につけるということは、望ましい人間形成を願っての事であり、家庭での躾けや幼稚園での生活指導としてなされているものである。しかし、集団のきまりを守らないからと言って厳しく威圧的な態度をとっても幼児の身につくものではない。集団生活のスタートから日々の積み重ねとして身につけていくものであるが、それだけではなく「どうしてきまりを守らないといけないのか」と、きまりの必要性をわからせ、毎日繰り返しその場をとらえて具体的に指導していくことが望ましいと考える。

集団のきまりを守るということは、将来社会生活を送る上でも必要なものであり、園生活の中だけの事ではなく、どんな社会に属しても集団のきまりを守る必要がある事に気付かさなければならない。これから続く集団生活のスタートである幼稚園で、教師が意図的に生活習慣の定着へ向けた取り組みを行い、子どもたちや保護者へ対しその必要性を知らせていき、定着させることがとても重要であると考えられる。

(3) 学習の基盤づくり

幼稚園教育要領序章「幼稚園の役割」の中に、「幼稚園教育は、その後の学校教育全体の生活や学習の基盤を培う役割も担っている」とある。基盤を培うとは「小学校以降の子どもの発達を見通したうえで、幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわしい生活を通してしっかり育てること」であり、そのことが「小学校以降の生活や学習においても重要な自ら学ぶ意欲や自ら学ぶ力を養うことにつながる」と示されている。

幼稚園では「興味・関心」が活動の重要な位置を占めている。個々が興味関心を持った事象に十分に関われる時間があり、意欲的に

楽しみながら学んでいる。そこで子どもたちに「未知なる事象に出会う喜び」を体感していく。幼稚園教師はこうした学びを充実させるための環境を整え、働きかけを工夫することこそが最大の役割と感じている。学級全体の活動をする中で、友達と仲良く遊ぶ、あいさつをする、きまりを守る、身の回りの整理整頓や公共の物を大切にすること、話しを聞くなどの社会的な生活習慣を身につけ、学習態度の基礎を幼稚園教育の中で培っていく必要がある。

(4) 浦添市の状況

浦添市内の幼稚園教諭（回収率 100%）と浦添市内の小学校 1 年の担任教諭（回収率 100%）と浦添幼稚園の保護者（回収率 92%）に協力を願い、基本的な生活習慣習得状況に関するアンケート調査を下記の項目で設定し、「基本的・社会的な生活習慣を身につけるうえで家庭・幼稚園・小学校のどちらに役割があると思いますか」という質問を行った。（表 2）

表 2 アンケート調査内容

身につける役割			
基本的生活習慣	家庭	幼稚園	小学校
早寝・早起き			
食事の仕方・朝ご飯の習慣			
トイレの習慣			
着脱			
手洗い歯磨き			
社会的な生活習慣	家庭	幼稚園	小学校
あいさつ			
順番きまりを守る			
身の回りの整理整頓			
自分の意見を言う			
善悪の判断			
共同の物を大切に使う			
仲良く遊ぶ			
片付け			
翌日の支度			

① 基本的生活習慣を身につけさせる役割

アンケートの結果から、三者共に「基本的生活習慣を身につけさせるのは家庭に役割がある」と捉えていることが分かった。

大部分の保護者は基本的生活習慣において、家庭で躰けをするという意識があるが、少数の保護者は「幼稚園や小学校に役割がある」と答えている。（図 2）

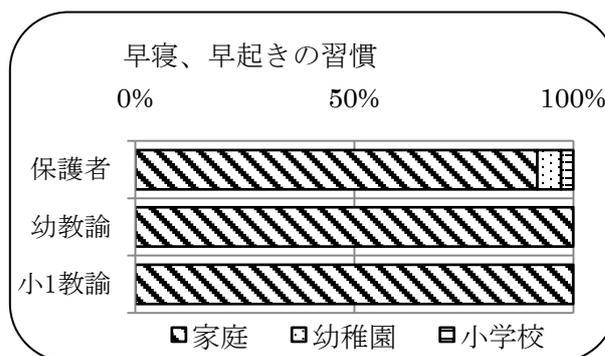


図 2 基本的生活習慣を身につけさせる役割が大きいのはどちらだと思いますか？

このことは、保護者の記述にある、「家庭だけではしっかり身につけさせることが難しい。先生の言うことはよく聞くので幼稚園でも教えてもらえれば、もっと身につくようになると思う」というように、家庭と幼稚園と連携して子育てをしていきたいという思いがあるようだ。

幼稚園では子どもたちへ意識付けや必要性を伝えていくことはできるが、基本的生活習慣においては、家庭における最も大切な役目であることを保護者へ伝えていき、幼稚園と家庭が連携し合いながら、子どもたちがどのように成長したかを共に認め合う機会を持つことが必要だと感じた。

② 社会的な生活習慣を身につけさせる役割

社会的な生活習慣に関しては、「社会の一員として身につけていくもの」であることから、「幼稚園で身につけさせる習慣」と回答する割合が三者共に多くなった。（図 3）

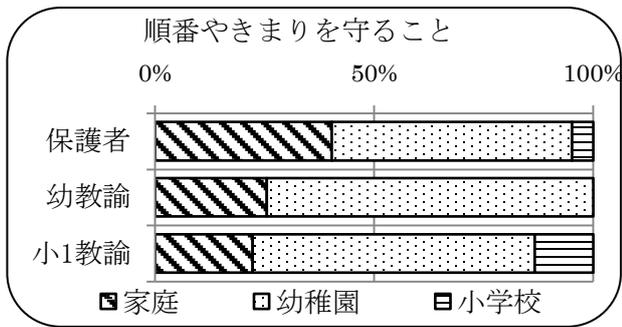


図3 社会的生活習慣を身につけさせる役割が大きいのはどちらだと思いますか。

社会的な生活習慣の項目において幼稚園教諭は「幼稚園で身につけさせる」と考えている傾向にあり、小学校への入学を意識した指導を行おうとしている姿が伺える。小学校教諭は生活習慣を身につけさせる役割のほとんどの項目を「家庭や幼稚園」と答えていることから、入学前に身につけてほしいと望んでいるのではないかと推測できる。

③ 基本的な生活習慣の定着状況

生活習慣を身につける役割に関するアンケートと同様に、「これらの習慣が身につきますか」という質問を行った。(表3)

表3 アンケート調査内容

身につけていますか？		
	いる	いない
基本的な生活習慣		
早寝・早起き		
食事の仕方・朝ご飯の習慣		
トイレの習慣		
着脱		
手洗い歯磨き		
社会的な生活習慣		
あいさつ		
順番きまりを守る		
身の回りの整理整頓		
自分の意見を言う		
善悪の判断		
共同の物を大切に使う		
仲良く遊ぶ		
片付け		
翌日の支度		

基本的な生活習慣が身についているかという問い14項目を集計し、80%以上を「やや満足」以上とし、調査結果をア～エの4つの型に分類した。

(ア) 三者満足型

「着脱の習慣」のみ、三者共「身につけている」の回答が80%以上であった。

(図4)

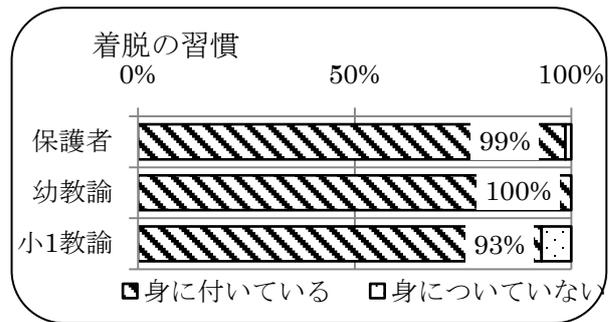


図4 ア) 三者満足型の例

(イ) 二者満足型

「食事の仕方」「トイレ」「順番やきまりを守る」「善悪の判断」「友達と仲良く遊ぶ」ことに関して、保護者・幼稚園教諭が80%以上であったが、小1教諭は80%以下であった。(図5)

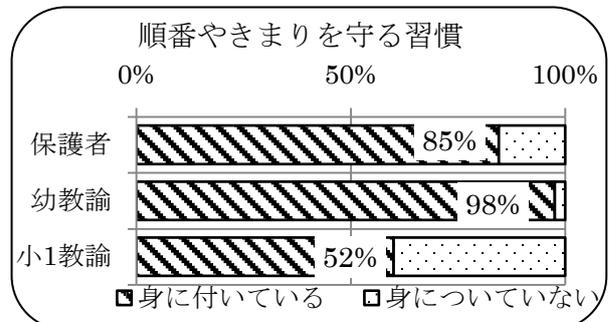


図5 (イ) 二者満足型の例

小1教諭の記述欄から「手を洗ったり提出物を出したりする時、割り込もうとする子がみられ、順番やきまりを守ろうとする意識が弱い」「トイレの使い方ができていないので、トイレが汚れたり、おもらししたり、トイレの前でズボンをおろす子がいて指導に時間がかかった」との声があった。

(ウ) 一者満足型

「早寝早起き」「手洗いうがい」「共同の物を大切に使う」に関して保護者のみ 80%を越えている。(図6)

小1教諭の記述欄から、「早寝早起きの習慣が身につけていなくて、睡眠不足のためか、朝からあくびをしたり、机にうつぶせたりするなど姿勢の悪さが目について困った」との声があった。

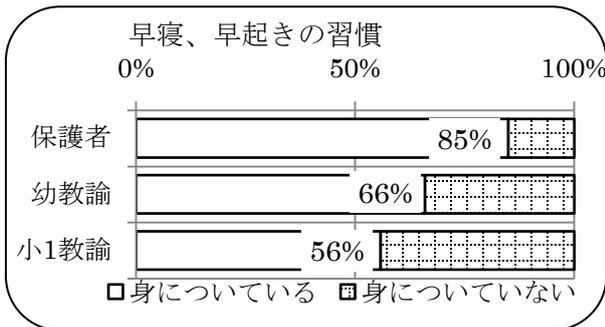


図6 (ウ)一者満足型(保護者のみ)

「挨拶」に関して幼稚園教諭のみ 80%を越えている。(図7)

小1教諭の記述欄から「なかなか進んで挨拶をする事ができない。担任以外の先生にも挨拶をするなど、場に応じた挨拶ができる」と自主的に挨拶をしてほしいと望んでいることがわかった。

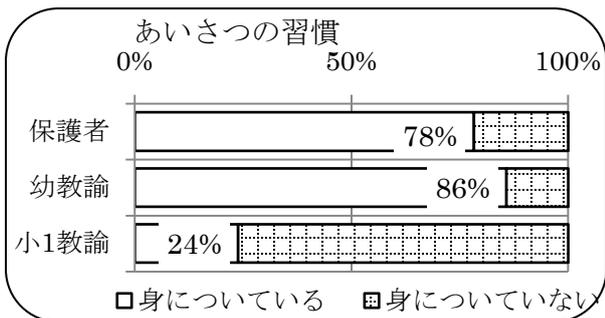


図7 (ウ)一者満足型(幼稚園教諭のみ)

(エ) 三者不満足型

「整理整頓の習慣」「相手に意見を伝え、意見を聞き入れる」「翌日の支度」「片付け」に関して、三者共身につけているとはいえない結果となっている。(図8)

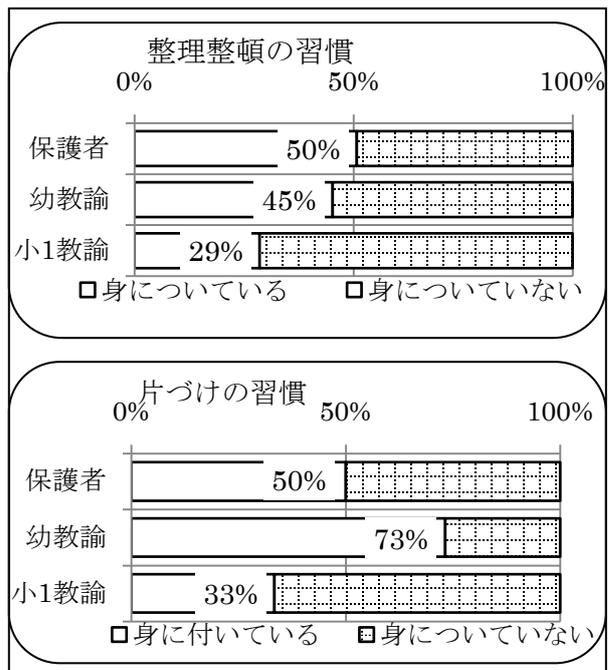


図8 (エ)三者不満足型の例

これらのアンケート調査の結果から、幼稚園教育の中で意識的に行われてきた生活習慣の取り組みについて、何に重点を置いて指導していくかという課題が見えてきたように感じる。また、「生活習慣が身に付いているか」という問いに関しては、小学校教諭からは「身に付いていない」とする項目が多かった。幼稚園教諭は生活習慣の指導を意識しているが、定着しているかを把握し、手立てを考え直す必要があるのではないか。小学校教諭は学習習慣の定着へ重点を置いていると思われるが、入学までに生活習慣が身につけていない子もいるので、入学した時期は幼児教育に近づいた授業形態をとるなど、お互いに歩み寄らなくては行けないという課題が見えてきた。

「幼小のたすき」をつなぐことを意識して幼稚園での指導をしていかなければならないと感じた。

④ 幼稚園への要望

アンケート調査の「幼稚園への要望」という記述欄に保護者・小学校からたくさんの声が集まった。(表4～表7)

表4 保護者から幼稚園への要望

- 話を聞く態度を身につけさせて、小学校への準備をしてほしい。
- きちんと座ってひらがなの練習などに取り組む時間が増えるといいと思う。
- 小学生になって授業中歩き回ることがないように幼稚園からの習慣が必要だと思う。
- 身の回りの整理整頓を身につけさせてほしい。
- 朝の支度に時間がかかるので、遅刻しないで登園するように先生からも話してもらいたい。
- 自分の意見が言えるようにフォローしてほしい。
- トイレをきれいに使えるよう指導してほしい。

表5 小学校教諭から家庭・幼稚園への要望

- 話を聞く態度の育成をしてほしい。イスに座って活動するなど、長い時間一つのことに集中する活動を取り入れてほしい。
- 着替えが一人でできるように。トイレではお尻も自分でふけるようにしてほしい。
- 自分のことを伝えられるようにしてほしい。
- ハンカチを持つ習慣を身につけさせてほしい。
- トイレに行く時間を意識させてほしい。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣を身にさせてほしい。
- 掃除用具の使い方の指導をしてほしい。
- 親への教育をしてほしい。提出物を期限内に提出する。欠席の時は連絡を入れる。学校からの文書に目を通すこと。過保護は困るが放任はもっと困る。
- お絵かきをたくさんさせてほしい。
- 集団遊びをたくさん経験させてほしい。
- 折り紙やはさみを使った、手先を動かす活動を多く取り入れてほしい。
- 食べ物の好き嫌いをなくし、20分間で食べられるようにしてほしい。
- 自分の名前が読み書きできるようにする。五十音の読みができること。書きはできていることが望ましいが、書き順、鉛筆の持ち方が正確なこと。

これらのアンケート調査から生活習慣に並び、学習習慣の定着への要望があることがわかった。

⑤ 入学に向けて

保護者に対し、小学校入学に向けて期待すること、不安に思うことを訪ねた。

表6 期待すること

- 幼稚園のように楽しく通える環境。
- 社会性や協調性が更に身につくであろう。
- 自分で考えて自分で行動できるようになる。
- ひらがなや足し算を勉強して覚えてほしい。
- 新しい友達との世界が広がるのが楽しみ。
- 給食を通してみんなと同じものを好き嫌いなく食べてほしい。

表7 不安に思うこと

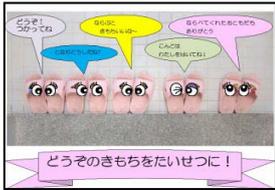
- 授業中、座っていられるか心配。
- 集団行動ができるか不安。
- 宿題ができるか不安。
- 集中力がないので不安。
- 友達関係。いじめにあわないか心配。
- 遅刻しないで登校できるか。
- 和式トイレが使えるか心配。
- 給食が食べられなくて泣いてしまわないか心配。
- 自分の意見をちゃんとと言えるか心配。
- 運動面で達成する前にあきらめてしまわないか心配。

家庭からの要望と小学校1年教諭からの要望を聞いて、幼稚園は双方の橋渡しをする役割があるのではないかという思いがした。幼児教育では、子どもたちが楽しみながら自発的に基本的な生活習慣を身につけていける方法を考える必要がある。

3 社会的生活習慣定着へ向けた教材教具の工夫

幼児に社会的な生活習慣を身に付けることの必要性を理解させるためには、様々な工夫が必要と考える。教材教具の工夫として次のように計画を立てた。(表8)

表8 教材教具の工夫

形態	教材教具	教育的効果	教材教具例
ICTの活用	①「おかたづけがんばりまん」 ②「どうぞのきもちをたいせつに」 ③「あいさつをしよう」 ④「かぼんのなか，すっきり」 ⑤「しゃかいのルール」	○視覚的に表現することができ、話の内容が幼児に理解しやすい。	
カードの活用	①「おかたづけがんばりカード」 ②「ひとりでできるもんカード」	○カードにすることにより、自分の頑張りを目で確認でき、保護者や教師、友達から称賛されることで、意欲向上へとつながる。	
掲示物の活用	①スリッパの並べ方 ②弁当の包み方 ③お道具箱の整理整頓 ④絵本の並べ方 (絵本ラベルの工夫)	○表示を工夫することで興味を引き、普段から目に触れるようにし、意識付けを行う。	
制作活動	①お道具箱の整理整頓下敷き	○教材教具の片付け方を一目でわかる様にするすることで、整理整頓を意識することができる。	
	②明日の支度BOX	○親子で翌朝の着替えを入れる専用BOXを作り、手作りBOXに親しみをもち、楽しく明日の支度をする。	
遊びの中で	①ボタンかけ遊び	○ボタンの開閉ができるようになり、着替えがスムーズになる。	
	②お弁当包み遊び	○普段の遊びの中で気軽に取り組める様にし、遊びながら弁当箱の包み方を覚える。	
紙芝居	①「あしたのしたくできたかな？」	○自作紙芝居で基本的な生活習慣を身につけることの必要性を子どもたちにわかりやすく伝えることができる。	

4 生活習慣に関する保育の年間指導計画（2年保育4歳児・5歳児）

学年	年中（4歳児）			年長（5歳児）			
	I期（4月～8月）	II期（9月～12月）	III期（1月～3月）	I期（4月～8月）	II期（9月～12月）	III期（1月～3月）	
幼児の姿	○喜びや期待を持って登園してくる幼児、新しい環境への戸惑いから不安や緊張感を持つ幼児もいる	○生活の仕方や流れがわかり、できることは自分でしようとする	○基本的な生活習慣がほぼ確定し、教師に頼らなくても身の回りのことができるようになる。	○環境の変化に伴う緊張感はあるが、年長児になった喜びを感じ、自分から行動しようとしている。	○友達と共通の目標を持ち、力を合わせてやり遂げようとする。	○就学への期待が高まり、自覚と自信を持つ。	
ねらい	○園生活に慣れ、喜んで登園する	○生活に必要な習慣や態度を身につける	○進級することに期待や喜びを持ち、進んで遊びや生活に取り組む。	○進級した喜びと自覚を持ち、進んで生活や遊びに取り組む。	○互いに思いを伝えあいながら遊びを進め、友達と心を通わせる。	○就学への期待や自覚を持って園生活を楽しむ。	
基本的な生活習慣の育ち	食事	○友達が揃うのを待って、一緒に食べる。 ○箸の持ち方に個人差はあるが、大体箸を使って食べる。	○弁当箱を片づける。 ○嫌いなものの量を減らしたりして、一人で食べる。 ○食事前後の挨拶を行う。	○食事前に進んで手を洗う。 ○当番活動を積極的に行い、決められたことはきちんとする。	○食事に必要なマナー、食事の仕方が身に着く。	○嫌いなものも、体との関係を理解し、頑張っ て食べようとする。	
	排泄	○一人で排泄ができる。 ○公共のトイレの使い方に慣れる。 ○手洗いをする。	○ズボンやパンツを履いたまま、下げて排泄しようとする。 ○戸を閉めて排泄する。	○決まった時間に排泄に行くことの必要性を知る。 ○排泄の後、上手に始末する。	○決まった時間に自分から排泄に行くようにする。	○清潔なトイレで用を足すことが気持ちの良いことであることを知る。	
	着脱	○ほとんど一人で着脱でき、促されて、衣服の調節や始末もしようとする。	○ボタン、チャックなどを扱い、裏表、前後がわかり、畳むことができる。	○友達ができないところを簡単な手助けができる。	○左右の区別がつき、きちんと着たり、正しく身につけることができる。	○衣服の調節が自分でできる。	○好みが出てきて着こなしが上手になる。
	清潔	○手洗い、鼻かみが上手にできる。 ○洗った後よく拭く。	○手洗い、うがいが必要であることがわかって行う。 ○歯磨きの習慣が身につく。	○身の回りの清潔に気づくようになる。（髪・爪）	○ハンカチを持つ習慣を身につける。	○衣服の汚れに気付き、自分から着替える。	○机・いすなどの清潔に気づき、掃除をしようとする。
	生活習慣	○喜んで登園する。 ○自分のことは自分でする。 ○挨拶や返事をする。	○集団行動がとれる。 ○時間を守る。 ○お弁当の約束を知る。	○当番の仕事を理解する。 ○公共物を大切に扱う。	○年下の子のお世話をする。 ○友達と仲良く遊ぶ。 ○園生活のルールを理解する。	○時間を知り、守る。 ○誰に対しても挨拶や返事ができる。 ○場に応じた挨拶を知る。	○当番活動をスムーズに行う。 ○公共の場での約束を守る。
絵本	《食事》 ○うさぎのおべんとうやさん ○ねこのかあさんのあさごはん ○もものすけのあさごはん	《排泄》 ○がっこうでといれにいけるかな？ ○みんなでトイレ	《着脱》 ○ぼくがパジャマにきがえていると ○ショコラちゃんのパジャマ	《清潔》 ○おでんおんせんにいく ○おふるだいすき ○はみがきやーだよ！	《安全》 ○聞いて読んで身につく交通安全（1～6巻） ○マナーとルールの絵本	《社会的な生活習慣》 ○ぶたはともだち ○はちやめちやぶたさん ○きょうふのわすれものチェック	
月	4月・5月	6月・7月	8月・9月	10月・11月	12月・1月	2月・3月	
行事	○家庭訪問○親子遠足 ○親子弁当会	○親子運動会 ○おにぎりパーティー ○親子せみとり○個人面談	○祖父母参観日 ○団子づくり○図書館見学	○運動会 ○新入園児入園面接	○生活発表会 ○ムービーづくり	○一日体験入園 ○運動発表会○学級懇談会 ○カレーパーティー	
家庭との連携	○学級だよりや家庭訪問などで園生活の様子を伝え、保護者に理解と協力を求める。 ○日々のコミュニケーションの中で、幼児の成長を保護者と確認しあう。	○園行事への参加を通して幼児期の成長を知らせたり、保護者同士の交流を深めたりする。 ○アンケートを通して生活習慣の実態調査をする	○社会的行事を通して、地域の人々と触れ合えるように働きかける。 ○アンケートの集計結果を知らせ、今後の課題に取り組む。	○ワークシートを通して幼稚園と家庭との指導の一貫性を図る。 ○親子で取り組める生活習慣に関する保育実践を行う。	○発表会を通して、一人ひとりのよさや、成長した姿を保護者、地域の人々と共に喜びあう。	○進級・就学への心構えや準備について話し合う場を設け、生活習慣を振り返る。 ○2年間の育ちをまとめ、保護者会で知らせながら成果を認め合う。	

Ⅶ 保育実践

1 検証保育の全体計画

検証保育の実践にあたり2年保育4歳児を対象として、下記の全体計画を立てた。(表9)

表9 検証保育の計画表

実践	月日	題材名	ねらい	活動内容	仮説
1	11/2 (火)	☆アンケート調査	・アンケート調査を通して子どもたちの生活習慣定着の状態の実態把握をする。	・浦添市内の幼稚園・小学校1年生の先生へアンケート調査の実施。 ・保護者へ向けてのアンケート調査の実施。	1
2	11/10 (水)	☆おかたづけ がんばりまん ☆どうぞのきもち をたいせつに	・片付けや整理整頓の必要性を知る。	・保育参観日に全体集会を開き、視聴覚教材を活用して、片づけについて話しあう。	2・3
		☆おかたづけ がんばりカード	・カードにすることで、子どもたちが自分の成果を目で見てわかるようにし、意欲向上へとつなげる。	・カードを使った実践を行う。(幼稚園での取り組み)	
		☆ひとりで できるもん カード		・カードを使った実践を行う。(家庭での取り組み)	
3	12/7 (火)	☆しゃかいのるーる	・学校、家庭だけではなく社会の中にもきまりがあることを知る。	・通学路の交通安全について考える。	2
		☆おみせのなかの せいりせいとん	・店内の整理整頓の様子を知る。	・園外保育で地域のスーパーへ陳列棚の整理整頓の様子を見に行く。	
4	12/10 (金)	☆お道具箱の中 すっきり!	・お道具箱の中の整理整頓が一目瞭然にでき、整理整頓を常に意識する。	・「おかたづけしたじき」の制作をする。	2
5	12/14 (火)	☆あいさつ をしよう ☆かばんのなか すっきり!	・視聴覚教材を通して、片付けや挨拶の大切さや明日の支度を自分ですることの必要性を知る。	・全体集会を開き、視聴覚教材を活用して、あいさつや、整理整頓について話しあう。	2
6	12/16 (木)	☆お弁当包み遊び	・遊びの中で楽しみながら繰り返し練習する。	・ハンカチで弁当箱を包めるように練習する。	2・3
7	12/21 (火)	☆ぼたんかけ遊び		・ボタンの開閉ができ、着替えがスムーズに行えるようぼたんかけの練習をする。	
8	1/7 (金)	☆あしたのしたく できるかな?	・自分でかばんの中の整理整頓、明日の支度ができるようになる。	・保育参観日を活用し、親子で翌日の着替えを入れる箱作りをする。	1 2 3
9	1/20 (木)	☆アンケート調査	・アンケートを通して子どもたちの生活習慣定着状態の実態把握する。	・保護者へのアンケート調査の実施。	1
10	2/25 (金)	☆これまでの子ども 達の成長	・教師、保護者が共に子ども達の成長を確認し、次年度の取り組みへとつなげる。	・学級懇談会で、これまでの子ども達の成長を振り返る。	1

2 検証保育 実践事例1

保育指導案（幼稚園教育）

平成22年11月10日（金）9：00～10：30

全園児 男児38名 女児41名 計79名

保育者 平良奈津子

(1) 主題

「おかたづけがんばりまん」「どうぞのきもちをたいせつに」

(2) ねらい

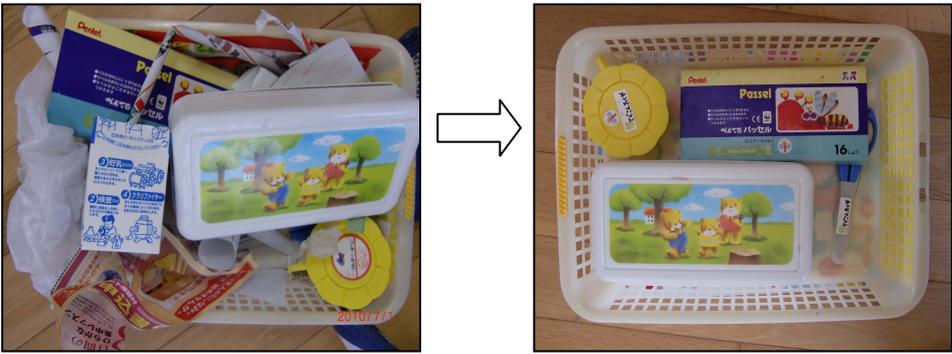
- ・保育参観日を活用し、園での指導の様子を参観してもらう。
- ・園生活のきまり（公共の場の使い方）をみんなで再確認し、一人ひとりが心がけることができるようにする。

(3) これまでの幼児の姿と主題設定の理由

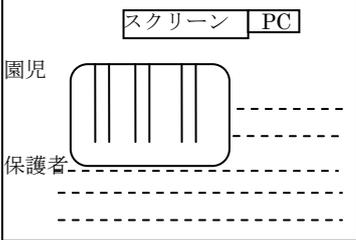
毎日の保育終了後、ハンカチや靴下の落とし物の多さが目立った。また、自分の持ち物であるお道具箱の整理整頓ができていない状況だった。話し合いをすると一時的に良くなるのだが、継続する事が難しかった。それらのことから、子どもたちが「どうして片付けする必要があるのか」ということを理解していないと考えた。

今回は保育参観日を活用し、子どもたちへ園生活のきまりを再確認するための集会の場を持ち、共通理解を図ることにした。

(4) 保育の工夫

導入の場面	<p>○片付前後のお道具箱の写真画像を拡大提示し、双方を見比べてみる。そのことで、片付いている状態とそうではない状態を全園児で共通理解をする。</p> 
展開の場面	<p>○がんばったときには「ピンクのハート」がんばっていないときは「灰色のハート」を示し、色や絵を使って心の状態をわかりやすく表現し、子どもたちにわかりやすく話を進める。</p>
まとめの場面	<p>○整理整頓をすると次に使うときに便利であり、公共のものなどは他の人も使いやすく、整理整頓されていると気持ちがいい、ということに気づけるよう方向付ける。話し合いの場を通して、子どもたちの話から持ち上がった内容をとらえ、みんなで考えてみる場を設け、身近な問題と捉えられるようにする。</p>

(5) 展開

時間	活動の流れ	☆教師の援助 □環境構成
9:20	<p>○保育室から遊戯室へ移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄を済ませる <p>○遊戯室に集まる。</p>	<p>☆遊戯室前方にはスクリーンとプロジェクターを準備する。</p> <p>※園児を前方に座らせ、保護者は園児の後方に着席する。</p> 
9:30	<p>○集まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動の目的を話す。 <p>○「おかたづけがんばりまん」の slides を観る。</p> <p>内容：お道具箱の整理整頓はできたか再確認する。また、片付けは自分のための片付けと、人のためにもなる片付けがあることに気付かせる。</p> <p>○発表（各クラス1名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が片付けを頑張ったときの様子を話してもらおう。 	<p>☆スライドを活用し、片付け前と後の様子の写真画像を拡大提示し子どもたちに見せる。</p> 
9:50	<p>○絵本「ブタはともだち」</p> <p>ICT を活用し読み聞かせを行う</p>	<p>☆幼児の集中が切れる頃なので、絵本の読み聞かせと遊び歌をし、頭と体をリフレッシュする。</p>
9:55	<p>○「かたづけマン」遊び歌</p>	
10:00	<p>○「どうぞのきもちをたいせつに」の slides を観る。</p> <p>内容：トイレのスリッパや絵本コーナーの絵本、保育室内のイスやテーブルの片付けの仕方について考える。きれいに片づけるとはどういうことか、何のために行うのかを話し合う。</p>	<p>☆スライド内に疑似教師を登場させることで、子どもたちの興味を引き、話に集中させる。</p> <p>☆トイレのスリッパが並んでいる写真とそうではない写真の双方の写真をスライドで映し出し、「どちらがきれいな状態か」を話し合う。言葉で示すだけでなく、スライドを利用することによって、子どもたちが視覚的にも、理解しやすいようにする。</p>
10:15	<p>○絵本「どうぞのいす」</p> <p>ICT を活用し読み聞かせを行う</p>	<p>☆幼児の集中が切れる頃なので、絵本の読み聞かせをし、頭をリフレッシュする。</p>
10:20	<p>○カード取り組みへの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかたづけがんばりカード ・ひとりのできるもんカード 	<p>☆項目ごとに、頑張れば○印がもらえることを話し、○印をたくさんもらおうと期待を持たせる。</p> <p>☆今日からの実践をみんなで頑張るよう励まし、本日の集会でのお話を聞く態度についても褒める。</p>
10:25	<p>○各クラスへ戻る</p>	

3 検証保育 実践事例2

保育指導案（幼稚園教育）

平成23年度1月7日（金）9：00～10：30
さくら組 男児15名 女児13名 計28名
保育者 平良奈津子

(1) 主題

あしたのしたくできたかな？～親子でBOXづくり～

(2) ねらい

親子での制作活動を通して、自分で明日の支度をすることを意識するようになる。

(3) これまでの幼児の姿と主題設定の理由

入園当初は、初めての集団生活を経験する子がクラスの半数いたため、登園時に泣いて母親から離れられない子や新しい環境に戸惑いを見せる子もいた。5月ごろから園生活のリズムが身につく始め、朝の支度の流れもわかるようになってきた。しかし、保護者の中には朝の支度ができないのではないかと我が子を心配し、保育室まで一緒に登園し親子で身支度をする姿も見られた。

6月に実施したアンケートによると、「明日の幼稚園の支度を自分でしますか？」の問いに対し、54%が自分であると答え、時々する21%、ほとんどしない25%という結果となった。記述欄には「翌日の支度が身につくについて、毎日自分で行えるようになってほしい」という声や、「家庭だけではどうしてもしっかり身につけさせることが難しいので、幼稚園でも教えてもらえればもっときちんとできるようになると思う」との声もあった。

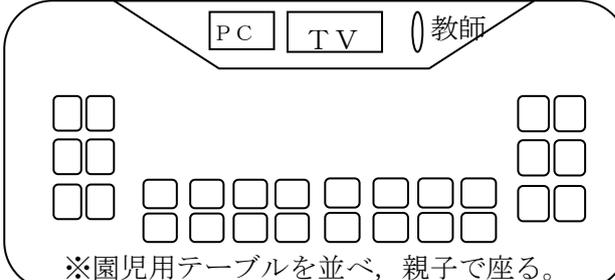
幼稚園では普段の生活の中でより良い生活習慣が身につくよう、一人一人に言葉かけを行っているが、その他にICTを活用し全園児との共通理解を図るための話し合いの場を設けた。また、お道具箱の片づけ下敷きを制作し整理整頓の意識づけや、カードを活用し片づけに対する意欲向上を図れるようにするなどの取り組みを行ってきた。その結果、園内の保育室の片づけや絵本コーナーの片づけ、トイレのスリッパを並べること等が身についてきた。

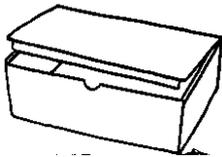
今回は保育参観日を活用し「明日の支度をする」ということに焦点を絞り、親子でBOX作りに取り組むことにした。親子で作成することでBOXに愛着を持ち、BOXを使って明日の支度を自分でやってみようという意欲が高まるのではないかと、また保護者としては子ども達が自分でやろうとすることを見守ることの大切を再認識する機会になるのではないかと考え本主題を設定した。また本研究のねらいの一つである家庭との連携も図れるのではないかと考えた。

(4) 保育の工夫

導入の場面	・自作の紙芝居「あしたのしたくできたかな？」を用い、幼児と同じ年齢設定の主人公を登場させることで、明日の支度をするということを自分もやってみようと感じることができるようになる。
展開の場面	・制作活動の説明を写真画像にし、大型デジタルTVで大きく表示することで幼児や保護者にわかりやすく説明する。
まとめの場面	・本時の子どもたちの頑張りに対しご褒美のメダルをプレゼントすることで、明日の支度を自分でやってみようという意欲向上へとつなげる。

(5) 展開

時間	活動の流れ	□環境構成 ☆教師の援助
8:45	○保育室から遊戯室へ移動	☆活動の前に排泄を済ませるよう声をかける。
8:55	○活動の準備をする。	☆必要な道具を忘れないように準備するよう声をかける。(のり・はさみ・リュック)
9:00 (導入 10分)	○集まり ・親子で一緒に座り教師の話聞く。 ○手作り紙芝居 「あしたのしたくできたかな？」 内容：4才の女の子がお家の人の手伝いや明日の支度をしている家庭の様子。	☆今日の活動内容を話す。 ☆明日の支度を自分でやってみようという意欲が高まるよう、紙芝居を読み聞かせる。  ※園児用テーブルを並べ、親子で座る。
9:10 (展開 10分) 9:20 (親子活動 30分)	○「あしたのしたくBOX」の紹介 ICT①スライド 内容：作り方の説明をする。 ○各自へBOXと支度確認表を配る。 ○「あしたのしたくBOX」作りを始める。 ・親子で協力しながらBOX作りを進める。	☆BOXの作り方はスライドを用いて説明する。 ☆ハサミを使うときの安全面に配慮する。 ≪教師が準備するもの≫ ・画用紙・型ぬき・のり用布巾・箱・ガムテープ ・スライド用教材・各自の支度確認表・PC ・地デジTV・園児用テーブル・イス・デジカメ ・マイク・ブッカー ≪園児が準備するもの≫ ・はさみ・のり・リュック(園児のイスにかける) ・好きなキャラクターの切り絵(家庭から持参) ☆頑張っている姿や工夫している姿を褒め、その都度励ましの言葉をかける。 ☆一人ひとりの表現を認めるとともに、友達の刺激を受け、表現の幅を広げられるよう、友達の表現にも目を向けられるようにする。
9:50	○片づけをする。 ・テーブルの上や床に落ちている紙くずなどを拾い、片づけをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">・ハサミとのりを片づけるカゴ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">・ごみ袋・ミニほうき</div> ※箱が入っていたビニール袋をごみ袋に利用する。 ☆片づけを頑張っている姿を褒めながら、教師も一緒に片づけをする。 ☆子どもたちが意欲的に片づけに取り組めるよう楽しい雰囲気作りをする。



※30分程で完成予定



時間	活動の流れ	□環境構成 ☆教師の援助
10:00 (まとめ 20分)	<p>○各自、自分のリュックの中から洋服を取り出し、実際に畳んでBOXに入れる。</p>  <p>○一人ひとりにメダルをプレゼントする。</p>	<p>☆楽しい雰囲気の中、自分で洋服を畳むことを促す。自分でやってみようとする意欲を大事にする。</p> <p>☆保護者へは、子どもたちの取り組みの様子を見守るよう言葉をかける。</p> <p>ご褒美メダル</p> <p>☆本時までの取り組みの頑張りに対して、また今日からの「明日の支度をする」取り組みを励ます意味を込めてメダルをプレゼントする。</p>
	<p>ICT②実物投影機（デジカメ利用）</p> <p>・園児に洋服を畳んでもらい、手元を大型デジタルTVに映して皆で見る。</p>	<p>☆友達の頑張っている姿を見ることで、自分もやってみようという気持ちが高まるよう言葉かけをする。</p>
10:10	<p>○今日の活動について感じたことを話し合う。 (園児：2名 保護者：若干名)</p>	<p>☆子どもたちが答えやすいように質問の仕方を工夫する。</p>
10:20	<p>○子どもたちはクラスに戻る。</p> <p>○保護者へは今日の制作活動の取り組みについてのアンケートを記入してもらう。</p> <p>○遊戯室のイスやテーブルの片づけをする。</p>	<p>アンケート用紙・鉛筆・回収箱</p> <p>☆アンケート記入の協力を願う。</p> <p>☆テーブルと椅子の片づけを各保育室まで運んでもらうよう協力を願う。</p>
評価の視点	<p>①親子で触れ合いながら楽しく活動に取り組んでいたか。</p> <p>②教師・幼児・保護者が明日の支度を自分することの大切さについて共通理解することができたか。</p> <p>③子どもたちが明日の支度を自分でやろうとする意欲を高めることができたか。</p>	

(6) 検証保育へ参加した保護者の声

保育参観日当日のBOX作り終了後、参加した23名の保護者対象に本時の取り組みについてのアンケート調査を実施した。(表10)

表10 検証保育終了後のアンケート調査結果

A (とても思う)	B (まあまあ思う)	C (思わない)	A	B	C
質問1	お子さんが楽しみながら制作活動に取り組んでいましたか？		91% (21名)	9% (2名)	0%
質問2	お子さんが「明日の支度をする事の大切さ」を理解する事ができたと思いますか？		65% (15名)	35% (8名)	0%
質問3	お子さんが明日の支度を自分でやってみようという意欲へとつながったと思いますか？		91% (21名)	9% (2名)	0%

アンケート調査の結果から、「明日の支度をする」ということに、子どもたちが楽しみながら意欲向上をさせる取り組みにはつながったが、「明日の支度をする事の必要性」を理解させることができたかという事に関しては課題が残った。

アンケートの記入欄には様々な保護者の声があった。(表 11)

表 11 検証保育終了後の保護者の声

<p>ご意見や感想がある方はご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BOX作りはとても良い取り組みだと思いました。(4名) ・BOXを作ったことで、子どもが「自分で準備する」と張り切っています。(1名) ・兄弟の分も作って、家庭でも活用したいと思います。(2名) ・おもちゃの片付けBOXも作ってみたいと思います。(1名) ・明日から、余裕を持って楽しみながら意欲的に準備ができると思います。(7名) ・理解できたかということに関しては、はっきりわからないが、楽しんでBOX作りに取り組めたので支度も楽しんでやってくれそう。(1名) ・明日の支度をするという自覚はできると思います。(1名) ・楽しんでBOX作りをしていました。(5名) ・何かの習慣を身につけるには、少し手間をかけて工夫してみることが大切だと思いました。(1名) ・今日帰ってから、自分で準備をするか、様子を見るのが楽しみです。(1名) ・小学校まで大切にに使わせたいと思います。(1名)

箱作りから2週間後、子どもたちの「明日の支度をする」という行動に変化があったかどうか、保護者へ向けてアンケート調査を行った。(図 9)

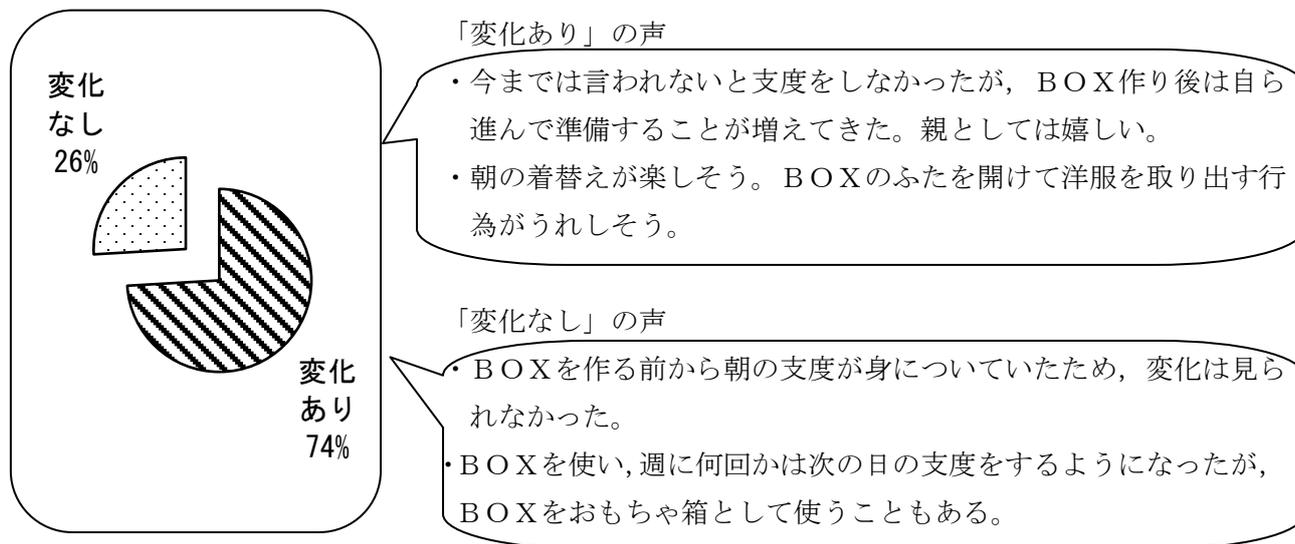


図 9 支度をする事への行動の変化

Ⅷ 研究の考察

1 作業仮説 (1) の検証

家庭との連携を図り、幼稚園と家庭での社会的生活習慣の定着へ向けた指導に一貫性を持たせることで、子どもたちの社会的生活習慣が、より身に付くであろう。

(1) 手だて

- ① 保育参観日を活用し、園生活のきまりを守ることや、自分の身の回りの整理整頓をすることの大切さについて話し合いの場を設け、保護者が園での指導の様子を参観する。(図 10)



図 10 遊戯室でお話集会を開いている様子

- ② 交換ノート方式のカードを活用することで、頑張った成果を目で確認することができるようになり、周りの人に褒められることで意欲向上につながる。(図 11)

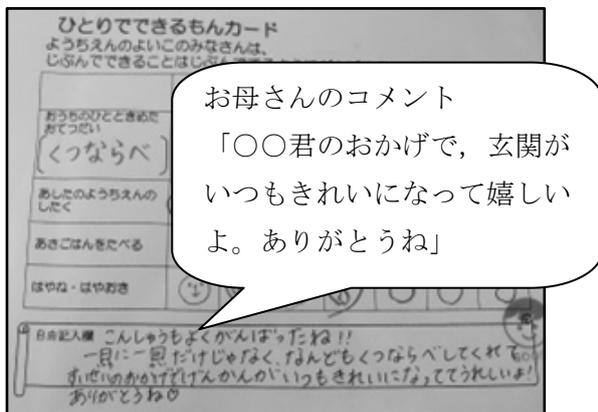


図 11 家庭との交換ノート方式のカード

- ③ 保育参観日を活用し、朝の支度を前日で行う習慣を身につけようという目的で、親子参加型の「あしたのしたく BOX づくり」を行う。(図 12・図 13)



図 12 親子で BOX を作っている様子



図 13 BOX に洋服をたたんでしまう様子

(2) 結果

検証前の6月と検証後の1月に保護者へ対し、「明日の支度を自分でしますか？」というアンケート調査を実施し、結果を比較した。検証前に比べ「する」の割合が11%減少した。その要因として検証前は「保護者が付き添って自分で支度をさせている」との回答が多かったが、検証後は「子どもが自発的に支度をしたか」を意識した保護者の様子が伺えた。(図 14)

「する・時々する」を合わせて比較すると検証前は75%だったが検証後は97%に増えた。

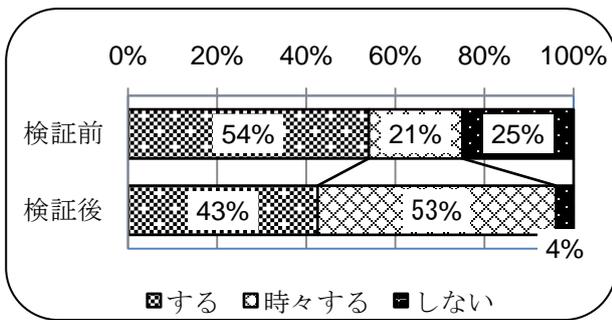


図 14 「明日の支度を自分でしていますか」
検証前（6月）と検証後（1月）の比較

カードを活用した取り組みについて寄せられた保護者の声。（表 12～表 15）

表 12 カード活用後の保護者の声

- ・カードの利用で、園での様子がわかり、親へのアンケートで家庭での様子を先生たちが把握できて、子ども一人一人のことを、より理解してくれていてとてもありがたいです。幼稚園が初めての集団生活ですが、とても成長しているように感じます。
- ・集団生活は初めてで、きつとついていけない、きつとできないと親の方が決めつけてしまい、毎日「あれできた？」と質問ばかりしていました。カードを活用し頑張っている息子の園での様子を知らることができ、安心しました。

保護者へ対し、家庭との連携として行った取り組みについての満足度調査をした。取り組みの満足度は「とても満足・まあまあ満足」を合わせると 96%となった。（図 15）

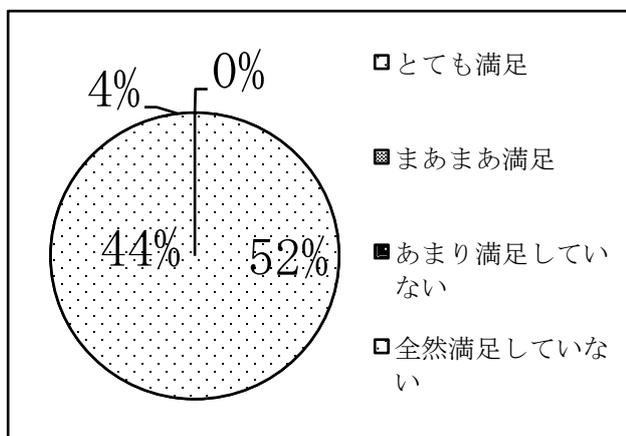


図 15 満足度のアンケート調査結果

表 13 「とても満足している」と答えた
保護者の声

- ・私は重い腰をなかなか上げないタイプなので、頭では子どものために何かしなくてはいけないと思いつつ、行動に移すことができませんでした。先生方から生活習慣が身につく取り組みを具体的に提示していただくことによって、自分が何をすべきかわかり、わかることによって、行動にも移せるようになりました。
- ・BOX 作り、片付けなどの取り組みは家だけでちゃんと教えてあげられなかったものを、園でも行うことによって、親としても「わかりやすく・楽しく」行っていくことができるようになったと思います。
- ・生活習慣を整える意識を、親である自分自身が常に、気をつけたいと反省しました。子どもは、一步一步できるようになると思い一緒に頑張ります。

表 14 「まあまあ満足している」と答えた
保護者の声

- ・カードの取り組みではその期間は頑張っている様子が見られましたが、その後もがんばれているのか不安です。
- ・声かけをすると、前の晩に準備するようになり朝の支度にも余裕が出てきました。母もイライラせず朝を過ごせるようになってきました。

表 15 「あまり満足していない」と答えた
保護者の声

- ・園ではしっかりしているみたいですが、家ではすっかり甘えん坊になってしまい、何もしない状態です。もっと親としてしっかりしつけないと…と思っているのですが、なかなかできていないので、これからゆっくり取り組んでいきたいと思っています。

(3) 考察

家庭との連携を図るため、交換ノート方式のカード活用や参観日を参加型にし、親子一

緒に取り組んだことで、社会的生活習慣の定着へ向けた保護者の関心が高まった。これらのことから、保護者の関心を高めるために家庭との連携を図り保育活動を進めたことは有効であったと考える。

2 作業仮説 (2) の検証

社会的生活習慣に関する教材や教具の工夫を行い、社会的生活習慣の必要性を幼児に理解させつつ、継続的・計画的に行うことで社会的生活習慣が身につくであろう。

(1) 手だて

- ① ICT を活用し、園生活のきまりや身の回りの整理整頓の必要性が理解できるような内容の視聴覚教材を作成し、お話集会を計画した。(図 16)



図 16 お話集会で発表している幼児

- ② 絵本コーナーでは、本棚と本の背表紙にも絵表示をすることで、片付け場所がわかりやすくなった。(図 17)



図 17 図書コーナーの掲示

- ③ 制作活動で「お道具箱の整理整頓下敷き」作りを行い、道具箱の下に敷くこと

により、一目瞭然で片付けの場所がわかり、普段から片付けを意識することができるようになった。(図 18)



図 18 下敷き制作取り組みの様子

- ④ 遊びの中で楽しみながらボタンかけや弁当箱包みに挑戦し、ひとりのできるようになった。(図 19・図 20)



図 19 ぼたんかけ遊びを楽しんでいる様子



図 20 お弁当箱つつみ遊びに挑戦

- ⑤ 基本的な生活習慣の定着へ向けた内容を手作り紙芝居に作成し、読み聞かせることによって、子どもたちにわかりやすく伝えることができた。(図 21)



図 21 読み聞かせの様子

- ⑥ 身の回りの整理整頓へ向けた取り組みで個々の頑張りに対し、メダルをプレゼントすることで賞賛し、自信を持たせることができた。(図 22)



図 22 ごほうびメダルをもらった幼児

- ⑦ 地域のスーパーに行き、店内の整理整頓の様子を見学した。また、歩道を歩くときには交通のきまりの話をするなど、家庭や幼稚園だけではなく、社会には様々なきまりがあることを知らせた。(図 23)



図 23 店内を見学している様子

(2) 結果

園全体で子どもたちの片付けの状況を 3 週間連続して調査した結果、1 週目から 3 週目にかけて、片付けに対する意識が高まった様子が現れた。(図 24)

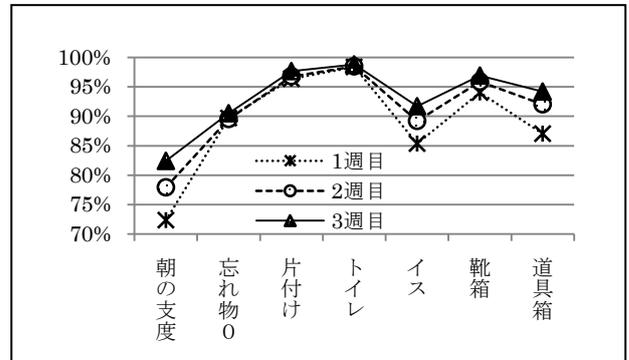


図 24 おかたづけがんばりカードの比較

(3) 考察

生活習慣の定着へ向けては教材教具の工夫を行い、社会的な生活習慣の必要性を幼児に理解させつつ、継続して取り組むことで効果が上がることがわかった。これらのことから生活習慣の定着へ向けて継続的・計画的に行ったことは有効であったと考える。

3 作業仮説 (3) の検証

幼児の発達に即した生活習慣の年間指導計画を作成し、幼児期に身につけたい生活習慣の個に応じた指導内容を整理することができるであろう。

(1) 手だて

① 浦添市の幼稚園児の生活習慣習得状況を把握するために、市内の小学校 1 年生担任教諭、幼稚園教諭と浦添幼稚園の保護者に対し、子どもたちの生活習慣習得状況に関するアンケート調査を行った。(5 ページから 8 ページ参照)

② 2 年保育 (4 歳・5 歳) 幼児の生活習慣に関する年間指導計画を作成した。(10 ページ参照)

(2) 結果

アンケート調査を行い、年間指導計画を作

成したことで、より良い生活習慣を身につけるための計画的な指導が行えるようになった。

(3) 考察

年間指導計画を作成するに当たり、より多くの人の意見を聞くことで内容が深まることがわかった。これらのことから、市内幼稚園教諭、市内小1教諭、保護者に対してのアンケート調査による実態把握を行ったことは生活習慣定着へ向けた個に応じた指導を整理するのに有効であったと考える。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 家庭との連携を図ったことで、社会的な生活習慣を身につけることの必要性を保護者と共有することができ、子どもたちの社会的な生活習慣の定着へ向けた意識の高まりがみられた。
- (2) 教材教具の工夫をしたことで、子どもたちの意欲が向上し、楽しみながら社会的な生活習慣を身につける取り組みが行えた。
- (3) 生活習慣習得状況を把握するためのアンケート調査を行い、年間指導計画を作成したことにより、幼稚園修了までに身につけておくべき具体的な生活習慣の整理ができた。

2 課題

- (1) 社会的な生活習慣定着へ向けた継続的、計画的な家庭との連携。
- (2) 継続的・日常的に指導が行えるような教材教具の工夫。
- (3) 公立幼稚園だけではなく、私立幼稚園や保育園での実態把握。

おわりに

期間中、励ましご指導くださいました浦添市教育委員会の友利愛子指導主事、浦添幼稚園の根間章子先生、本研究所の宮城むつみ所長、比嘉清喜係長、島袋優指導主事に深く感謝申し上げます。職員の皆様にもお世話になりました。また、テーマ検討会等で様々な角度からご助言くださいました浦添市教育委員会の諸先生方に心より感謝申し上げます。

最後に、研究の機会を与えてくださいました浦添幼稚園の川上喜真園長先生をはじめ、いつも暖かく声をかけてくださった諸先生方、半年間を共に支えてくださった研究員の先生方に感謝申し上げます。

《主な参考・引用文献》

『幼稚園教育要領解説』	文部科学省	フレーベル館	平成 20 年
『幼児期から児童期への教育』	国立教育政策研究所	教育課程研究センター	
		ひかりのくに	平成 22 年
『夢・にぬふあ星プランⅡ』		沖縄県教育委員会	平成 22 年
『望ましい経験や活動シリーズ 第 7 巻 生活習慣』		チャイルド本社	昭和 61 年
『望ましい経験や活動シリーズ 第 16 巻 当番・仕事』		チャイルド本社	昭和 61 年
『小1プロブレム対策、文部省も検討に着手』	斎藤剛史	産経新聞	平成 22 年